

空調や給食室など実情にあった学校建て替えを自由に使える貯金が8億円台で大丈夫か!?

自由民主党西東京市議団 稲垣 裕二(いながき ゆうじ)



学校施設の建て替え

問 保谷中、本町小の一体的な整備や、跡地活用の建て替え等様々なケースがある。現行計画では仮設校舎は整備しないとしているが、画一的ではなく柔軟な対応が必要と考えるが。
答 地域の実情を踏まえた対応の必要があり、計画の見直しを検討する。
問 学校施設の計画の中で小中学校全体の計画を示すべきと思うが。
答 将来の見通しが持てるように計画期間の整理も合わせ検討する。
問 給食室の整備や暑さ対策の空調の在り方も検討をすべきでは。
答 安全安心な給食提供のための調理施設の更新や冷房機器の追加設置など検討する。
問 小学校18校と中学校9校の通学区域の今後の在り方について伺う。
答 小学校から進学する中学校は同

一が望ましい、地域コミュニティの活性化も含め今後検討する。

基金残高

問 財政調整基金の年度末残高見込みと国への返還金はどの程度か。
答 今年度末、基金残高約14億9,000万円、返還金は年度内6億円程度。
問 差引残高8億円台と極端に少なくなるが、大丈夫なのか。見解は。
答 これまでになく厳しい。



▲整備予定の保谷中学校

人生100年時代到来 生涯現役応援サイト「ミーツ」をもっと広めて地域も元気に

生活者ネットワーク 後藤 ゆう子(ごとう ゆうこ)



問 「人生100年時代」と言われる現在、定年退職後に地域に戻ってこられるシニア世代に対しての受け止めは。
答 高齢期においても希望に応じて、自らの知識、経験等を生かせる居場所を持ち、就労や社会活動等多様な活躍の機会が得られる環境を整備していくことは、生きがいづくりや介護予防の観点から重要であると考えている。
問 一昨年開設された西東京市生涯現役応援サイト「ミーツ」のこれまでの実績を問う。
答 地域の人たちと仕事やボランティアを通じて触れ合うこと、空いている時間に趣味や経験を生かせる活動に参加することなどを希望するアクティブシニアとボランティアや仕事をしてくれるシニアを募集する団体・

企業をつないでいる。
問 香害で苦しむ市民が増えている。窓口対応する職員にも啓発が必要と考える。フレグランスフリー宣言を行うことに対する見解は。
答 他の先進自治体の取組を参考にしながら周知に取り組む。

その他の質問

◇マイクロプラスチック*対策
◇グリーンインフラ*の取組



▲生涯現役応援サイト meets のロゴ

子どもが安心して生活・学習できる環境を! 下野谷遺跡の学習活用とPRの強化を!

立憲民主党 千間 いずみ(せんま いずみ)



学童クラブの過密化対策

問 現在の過密率、子どもの活動の質確保や過密化対策の市の見解は。
答 36施設中35施設が定員超過で、平均158.7%の超過率。指導員研修や巡回指導を実施。対策としてタイムシェア、田無柳沢学童クラブを令和8年1月に開設予定。
意見 過密化による指導員の健康面を懸念する声も。丁寧な環境整備を。
水泳学習の安全性の確保
問 水泳学習の安全確保と補助員の配置について市の見解は。
答 教員向けの様々な研修、小学校では着衣水泳を実施。1学年2クラス以下の場合、補助員を追加配置。
意見 担任が指導と監視の両方を担うのは困難。1学年3クラス以上の学年でも補助員追加を検討すべき。

下野谷遺跡の教育的価値とPR

問 教育的にも非常に価値のある遺跡だが、学校教育との連携やPR方法に対する市の見解は。
答 副読本に掲載し、体験学習も実施。令和7年度に史跡指定10周年シンポジウムを開催予定。SNSでイベントの告知等を行っている。
意見 様々改良しながら、よりたくさんの方に魅力が伝わるように引き続き取り組んでほしい。



▲下野谷遺跡

プラスチックは、可燃ゴミに26市中17市ではすでに実施

自由民主党西東京市議団 保谷 なおみ(ほうや なおみ)



問 柳泉園組合の3市ではプラスチックを不燃ゴミとして収集しているが、23区では可燃ゴミとして収集している。区分の見直しについての考えを聞く。また26市の動向は。
答 西東京市一般廃棄物処理基本計画を令和8年度に見直す。他自治体の状況を調査研究するとともに、柳泉園構成3市とも情報共有を図る。26市においては17市が可燃ゴミ、3市が可燃・不燃両方での取扱いとなっている。
意見 柳泉園組合の不燃ゴミ処理施設は暑い時期は悪臭がひどく、労働環境が悪い。多くの自治体でプラスチックゴミを可燃ゴミとして収集し、サーマルリサイクル*を行っている。
問 中学校部活動の地域連携実施に向けて、アンケート調査を行ったと聞く。生徒、教員、保護者それぞれどのような結果になったか。

答 生徒は、自分の学校のほかの部活動に参加したいとの回答が6割超、保護者は、地域クラブに参加させたいが6割超である。教員は8割超が部活動の指導や運営に負担を感じているとなった。
意見 地域クラブのメリットをしっかりと生徒に伝えてほしい。



可燃ごみ・不燃ごみ兼用袋 プラスチック容器包装類専用袋
▲西東京市のごみ袋

新型コロナウイルス感染症等、ナラ枯れ、新設道路の交差点、まちなかベンチについて

自由民主党西東京市議団 小林 たつや(こばやし たつや)



問 新型コロナウイルス感染症の状況、その他感染症の動向は。
答 定点医療機関当たりの報告数は多摩小平保健所圏域では5.27人と8月中旬より微増している。コロナ以外ではRSウイルスが増加。新型コロナワクチン接種は、本年度6,500円で受けられる準備をしている。
意見 多くの医療データや論文において一部の人には、夏風邪程度に終わらない後遺障害が出る。接種の助成も含め情報発信をして欲しい。
問 ナラ菌と呼ばれる病原菌が樹木を枯れさせてしまうナラ枯れによる市内樹木被害は。
答 一定の被害を確認しているが、殺菌剤の注入等で学校を含め被害の拡大防止に努めている。
問 新設都市計画道路と交差する市道・私道の信号機横断歩道の設置は。

答 市道16本私道13本都道1本が予定されている。都及び警視庁と調整する。
意見 「道路は誰のものか?」考えれば自ずから答えは出る。住民のための道路造りを願う。
問 まちなかベンチについて伺う。
答 年5か所程を建設予定している。
意見 手すりつきベンチを望む。



▲谷戸町三丁目のまちなかベンチ

認知症になっても住み続けられるまちへ身寄りのない高齢者へ、支援の強化を!

生活者ネットワーク かとう 涼子(かとう りょうこ)



排外主義に対する市のスタンス

問 外国人へのヘイトや偏見が身近な地域や学校教育の場に入り込んでくることが危惧される。多文化共生の取組を後退させてはならない。
答 今年度中に多文化共生推進指針を策定する。互いの文化の違いを認め合い、外国人も地域社会の一員として共に支え合うまちを目指す。
夏休みのさらなる体育館開放を
問 外遊びのできない危険な夏の暑さが常態化している。学童クラブや地域の子どもたちに対し、学校体育館のさらなる開放を求める。
答 学校との調整、見守り協力者確保に課題がある。引き続き検討する。
身寄りのない高齢者への支援
問 金銭管理や入院手続きに支援が必要な認知症の高齢者が地域に増えている。対応状況を伺う。

答 相談件数は2,956件と増加傾向で、日常生活自立支援事業*の契約待機者も発生している。
意見 対策を早急に練るべき。
障がいのある子への介助員配置
問 新入学時に介助員が配置されず、親の付き添いが求められているが改善を求める。
答 現在、2学期からの配置だが、今後は入学時からの配置を検討する。



▲認知症マスコットキャラクター ロバ隊長

*サーマルリサイクル 回収された廃プラスチックを燃焼し、その際に発生する熱を有効活用すること
*マイクロプラスチック 5ミリメートル以下の微細なプラスチックごみの総称
*グリーンインフラ 自然環境(水・緑・生き物など)が持つ機能を活用して、社会の様々な課題を解決し、持続可能で魅力ある地域づくりを進める考えや取組
*日常生活自立支援事業 社会福祉協議会の権利擁護センター「あんしん西東京」で行っている、認知症高齢者等の預金の出し入れや家賃、公共料金等の支払い、入院・入所手続や通帳管理などの日常生活を支援している事業